



塚本部長(左:2番目)と松本次期部長(3番目)

10年度は会員増強重点に

青年会議所保険部会 臨時總會

発足30周年、新たな一歩へ

青年会議所保険部会(塚本徳明部会長)は11月13日、東京・銀座の銀座アネックスビルで第30回臨時總會を開き、2010年度の基本方針や年間事業計画、同会の名称変更などについて審議した。

事業計画では「保険業界の未来を創造する事業の開催」「会員拡大の推進」「効率的かつわかりやすい部会運営」などを掲げ、特に会員増強を重点施策と位置づけ、各種広告展開やホームページの充実などに取り組むこととした。

名称変更の件では、母体組織である日本青年会議所が現在、公益法人改革に伴い法人格取得の取り組みを進めていることから類似商号での部会運営が難しく、従来の「日本青年保険部会」から「青年会議所保険部会」に名称を変更することで

了承。ただし、来年1月以降に日本青年会議所の支援団体として認可されるれば従来の名称が使用できるため、変更名称の使用はその間までとなる見通し。

臨時總會では部会長の塚本氏が「青年会議所保険部会は発足30周年を迎えたが、メンバーの協力はなしいはこまで来られなかった」と会員に謝辞。前部会長の北畠文康氏は「次年度も代理店を引きつける企画を考えてくれるはず」と次期部会長の松本一成氏への期待を示した。

松本氏の2010年度部会長所信は次のおお。 「私は平成16年に保険業界を変えたい、保険屋と呼ばれる業界ではなく、皆が羨むような魅力ある業界にしていきたいという思いを持って、神戸から東京に出てきまし

た。保険代理店としての理想像やあるべき姿を模索し、紆余曲折を繰り返すなかで最終的に行き着いたのがリスクマネジメントでした。

スローガンの『原点回帰』と『環境適応』はこのリスクマネジメントの基本となる考え方です。 激変する時代であるからこそ、あるべき姿や存在意義、理念といったものを踏み外すことなく、しっかりと軸を持って経営していくことが必要であり、それは我々が経営する代理店においても、この保険部会においても同様であると考えます。

業界全体の変革を起すために我々が戦わなければならないのは他代理店でもなく、保険会社でもなく、消費者が持つ保険代理店に対するイメージや保険業界への偏見です。一つひとつのお客様の満足の積み重ねが消費者や社会の評価となり、保険業界のステイタスの向上につながります。一社でも多くの代理店がその意識を持ってレベルアップに努め、お客様に真の満足を提供することで、業界全体のために貢献することが大切です。 その積み重ねがいずれ大きく業界を変えていくパワーにつながると考えます。閉塞感のある業界に元気を与えるためには、お互いが業界の仲間・同志として育み合いながら成長し、自社のことだけでなく、業界全体に目を向け、業界のために考え、動ける仲間を増やすことが大切であり、それが今年度の保険部会の重要なミッションであると考えています」。